

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は「地元根ざし、人権教育を行う学校を」という、地域の熱い要望により設立された。その経緯と伝統を大切に継承し、創立以来の人権教育を軸とした教育実践の充実をはかり、今後も柴島高校人権教育の更なる発展をめざす。そのため、全ての生徒のニーズに応えられる学校づくりをめざし、生徒一人ひとりの個性の伸長と持てる力を最大限に伸ばし、自己実現に向けて大きな展望のもてる「確かな学力と生きる力」を身につけることができる総合学科づくりを行う。

合わせて、障がいの有無や様々な立場の人が、互いに違いを認め合いながら、共に生き生きと充実して暮らすことのできる人権が尊重された共生社会の実現に資する生徒が育つ学校を創造する。

- 1 生徒一人ひとりがそれぞれの個性を生かし、主体的に学習に取り組み、学ぶことの楽しさや成就感を感じる中で、知識・技能を獲得し、思考・判断・表現できる力をつけ、さらに主体性・多様性・協働性を発揮できる資質・能力を身につけることのできる学校
- 2 自己探求と社会参加への自覚を深める取り組みを通じて、自己実現に向けた進路を切り拓ける学校
- 3 活発な特別活動を通して豊かな心と健康な身体を育てる学校
- 4 一人ひとりが活躍し、学びを得ることによって、社会の多様性推進に貢献できる生徒が育つ学校
- 5 家庭との連携を深めるとともに、生徒一人ひとりが地域や社会の人々と関る中で、豊かな人間性と市民性を育てる学校

2 中期的目標

1 主体的な学習に向けた授業改善の推進

- (1) 「協働」をモチーフに授業改善をさらにすすめ、主体的に学ぶ力（生徒自らが考え、理解し、次に学びたいことを見つけ出していける力）を育成する。
 - ア 学力育成部を核として学習力向上に向けた新たな授業形態への改善をはかる。
 - イ 学習者の視点に立った、教材の研究・開発する。
 - ウ 学習方法や方略を獲得させ、生活習慣を見直すことで、学習行動を促しその習慣化を図る。
 - エ 視聴覚機器を積極的に整備し生徒の発表する場を増やす。そのことにより表現力を育成し主体的な学びの姿勢を強化する。(授業アンケートで検証)
 - オ 評価を工夫・改善することで授業の形態を改善し、生徒の主体的な学びを促進する。校内でそのための議論を深める。

- (2) ユニバーサルデザインを意識した教育環境、授業づくりを推進する。

- ア 全教職員で全ての生徒がわかりやすい授業づくりに取り組む。
- イ 電子黒板やプロジェクターなどの視聴覚機器を充実させることで視覚による情報を増やし、理解を促進させる。(研修を実施する)

2 キャリア教育・人権教育の推進

- (1) 3年間を見通したコアカリキュラムの充実を図る。

- ア 「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」、特別教育活動を通じて、自己の探求と、他者とのつながり、自分と社会のつながりを理解させ、夢と志を持った進路選択と自己実現が図れるよう支援する。
- イ 生徒会活動を通して、学校生活における様々な課題を発見し、自他の個性を活かし、協働して課題克服に取り組む体験を通じて市民性が育つよう支援する。

- (2) データを科学的に分析し、その結果に基づいた科目選択・進路選択を積極的に進める。(目標値：希望進路達成率 95%以上を維持する)

- (3) 社会参加を促す体制作りを確立する。

- ア 地域連携型授業並びに特別教育活動を通じて、生徒が、地域社会に直接アクセスすることや、地域の方が「ななめの関係」としての支援者となっていただくことができるように地域連携部を核として連携体制の整備をすすめる。
- イ 地域活動協議会への参加を通じて、地域と連携し、教育的・社会的資源として貢献できる学校づくりをすすめる。

3 安全安心で魅力ある学校づくり

- (1) 安全で安心な学校づくり共同研究校として、人権教育推進委員会を中心として、調査・研究をすすめ「世代を超えた通わせたい学校」の創出につとめる。

- (2) 支援教育サポート校として、研究をすすめ、「ともに学び、ともに育つ教育」についての公開授業、巡回相談を実施する。

- ア アセスメントに基づく個別の教育支援計画の作成と教育実践についての研究を促進する。

4 ICTを活用した校務の効率化

- 統合学校 ICT ネットワークの活用と、校内イントラネットの整備・総合をすすめる中で、業務の精選と効率化を図り、生徒と触れ合う時間の確保に努める。(学校教育自己診断で検証) (51.2%→60%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】 「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング)を学校全体で取り組みおおきく成果を挙げることが出来た。元来から総合学科として取り組んできたところであるが、教育改革の流れとして本校内でも再度認識を強く持ちコアカリキュラムをテコに校内全体での授業の活性化につなげることが出来ている。*「主体的・対話的で深い学び」が67.2%→90.1%と大幅上昇、「論理的思考力・表現力」67.8%→76.6%</p> <p>【生活指導等】 「自立・自律の意識の育成」を心がけて学校として取り組み成果を挙げている。生徒一人ひとりが主体的に判断し行動する意識の高まりが数字として顕著に表れた。*「自立」:77.8%→86.4%、「自律」69.5%→77.8%</p> <p>【人権教育】 「ともに学び、ともに育つ教育」は継続して成果を挙げている。多様性を尊重し、異なる考えの人とも協働できる態度の育成も順調に進めることが出来た。*「共生社会に向けての努力」88.8%→90.6%、「他者との協働」72.6%→85.6%</p>	<p>第1回(6/7) ○学校経営計画について 「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング)の更なる展開を期待する。 ○人権教育推進委員会方針 更なる分掌改革は新カリキュラム導入時がチャンスである。 ○通級指導教室はこれまでの「ともに学び、ともに育つ教育」と矛盾の無いように丁寧に進めて欲しい。</p> <p>第2回(11/29) ○通級指導教室は順調にスタートを切れた。→更なる充実を求め、次年度以降の展開に期待する。 ○次年度、総合文化発表会(仮称)を開催し、学校内外に本校の特徴・良さを再認識する機会を設ける。→より良きものになるよう期待する。</p> <p>第3回(1/31) ○「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング)の実践は大いに評価する。今後とも努力を続けてもらいたい。 ○通級指導教室の本年度の成果は十分なものであった。今後、府全体に情報発信できるよう頑張っていたきたい。 ○集団育成を基盤に据えた人権教育の追求に期待する。学校開きの改革にも注目していく。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 主体的な学習に向けた授業改善の推進	<p>(1) 生徒の発表の場・機会を増やし表現力を高めるとともに互いの違いを学ぶ。</p> <p>(2) 授業力向上を図るため教科での授業のアクティブ・ラーニング化を進める。</p> <p>(3) 電子黒板を活用した教材開発を進める。</p> <p>(4) ユニバーサルデザインを意識した教育環境、授業づくりを推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングの視点から生徒が自ら課題を発見し、考え、発表する機会を増やす。 ・視聴覚機器をさらに活用し表現力の育成を図る。 ・「視覚化・協働化」をキーワードにした授業改善の推進を図るための研修と相互に公開授業研修会を継続的に実施する。(研修2回/年、公開授業2回/年) ・ユニバーサルデザイン化をキーワードに各教室に整備されたプロジェクターを活用し視覚による理解を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断「アクティブ・ラーニング」の項目(67.2%→70%) ・学校教育自己診断「自主的学習」の項目(46.8%→50%) ・学校教育自己診断「ICT機器・視聴覚機器」の項目(78.4%→80%) ・研修の実施と内容を点検し成果を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コアカリキュラムを中心とした授業改革は順調に進展し「主体的・対話的で深い学び」は一層浸透しつつある。(学校教育自己診断では67.2%→90.1%と大幅上昇)(◎) ・授業での課題の適正度も増し、自主的学習が定着しやすくなった。【やらされる宿題よりやりたい課題】(学校教育自己診断では46.8%→58.0%)(◎) ・他府県の授業改革の先進事例研修にも参加、校内伝達研修も実施し浸透を図った。(◎) ・ICT機器の活用は概ね定着した感があるが、教職員間で情報交換を図りさらなる活用方法を追求する必要がある。(学校教育自己診断では78.4%→78.8%)(○) ・教室内の掲示物の工夫、蛍光色のチョークの導入、電子黒板の活用など教職員の授業のユニバーサルデザイン化の意識も定着している。(◎)
2 キャリア教育・人権教育の推進	<p>(1) コアカリキュラムのさらなる充実、効率化を図り次世代を担う「生きる力」の育成を図る。</p> <p>(2) コアカリキュラムの授業における地域教育資産の開拓を図る。</p> <p>(3) 科学的データ分析による科目選択・進路選択</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コアカリキュラム3年間の指導について継続的に改善を加えるとともに、評価法の研究を行う。 ・地域活動協議会への参加と連携を行う。 ・地域企業との連携授業を継続して実施する。 ・地域ボランティア活動への参加を行う。 ・出身中学校への訪問を実施する。 ・コアカリキュラムの活用でコミュニケーション能力をはじめ、論理的思考力・判断力・表現力の育成に継続して取り組む。 ・生徒の資質・能力を科学的に分析し科目選択や進路指導に引き続き活用する。 ・「産業社会と人間」(ライフプランニング)の授業などを通し自分を知り自分を見つめさせ、自分の将来を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修で成果の報告を行う。 ・学校教育自己診断「探求力」の項目(75.7%→77%) ・学校教育自己診断「論理的思考力・表現力」の項目(67.8%→70%) ・学校教育自己診断「地域とのかかわり」の項目(59.6%→62%) ・学校教育自己診断「進路に関する情報提供」の項目(82.9%→85%) ・進路達成率(98%→98%) ・学校教育自己診断「自分の生き方を自分で決める力の育成」の項目(77.8%→80%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末に3年間の検証を実施し、毎年改善を重ね本年度も満足のいく状況であった。(○) ・新学習指導要領を視野に新カリキュラム編成のプロジェクトチームを立ち上げ、さらなる改革に着手した。(◎) ・3年生の「卒業研究」は非常に充実した内容で満足のいくものであった。他の科目も自ら探求する内容をさらに工夫していく。(学校教育自己診断「探求力」:75.7%→77.5%)(○) ・教職員は思考力・判断力・表現力の育成を意識し成果を挙げている。(学校教育自己診断「論理的思考力・表現力」67.8%→76.6%)(◎) ・地域の関連機関との連携も充実している。(学校教育自己診断「地域とのかかわり」:(59.6%→76.0%)(◎) ・進路に関する情報提供が適切に行われている。(学校教育自己診断「進路に関する情報提供」:82.9%→83.6%)(○) ・生徒の努力もあり進路達成率は98.1%であった。 ・学校の様々な取り組みで「自立」の意識が育っている。(学校教育自己診断「自立」:77.8%→86.4%)(◎)

府立柴島高等学校

<p style="text-align: center;">3 安全安心で魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 熟慮して判断し自立ある行動のできる生徒の育成する。 (2) 互いの違いを認め合い、尊重し合うことを学ばせる。 (3) 「共に学び共に育つ教育」についてさらなる充実を図る。 (4) 生徒同士が協働して物事に取り組む力を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 時間管理や学校からの連絡事項などを、自らコントロールできるように指導し、社会人としての基礎を築かせる。 • 人はそれぞれ違いがあることを学び、たとえ考え方や価値観が異なってもコミュニケーションができる力を育成する。 • 自立支援コース生を含めすべての生徒が「ともに学び、ともに育つ」ことの意義を認識し、社会に貢献できる力を育成する。 • 授業などを通して他者と協働し課題を解決する力を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> • 学校教育自己診断「自分を律する力の育成」の項目 (69.5%→72%) • 学校教育自己診断「異なる価値観の人とのコミュニケーションの育成」の項目 (79.2%→82%) • 学校教育自己診断「共生社会に向けての努力」の項目 (88.8%→90%) • 学校教育自己診断「他者との協働」の項目 (72.6%→75%) 	<ul style="list-style-type: none"> • 教育活動全般を通じて「自律」の精神の育成を心掛け成果を挙げることができている。(学校教育自己診断「自律」69.5%→77.8%) (◎) • 互いの違いを認め合い多様性を尊重することを学校として徹底し、成果を挙げている。(学校教育自己診断「異なる価値観の人とのコミュニケーションの育成」79.2%→85.0%) (◎) • 「共に学び、共に育つ教育」も毎年進化を続けながら定着し成果を挙げている。(学校教育自己診断「共生社会に向けての努力」88.8%→90.6%) (○) • 異なる価値観の人とも協働する態度の育成についても大きく成果を挙げることができた。(学校教育自己診断「他者との協働」72.6%→85.6%) (◎)
<p style="text-align: center;">4 ICTを活用した校務の効率化</p>	<p>(1) ICT化をさらに進め、生徒への連絡事項の整理や、教職員間の情報共有を進める。 (2) 校務のICT化を進めることで会議の効率化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 生徒向け電子掲示板の充実を図る。 • ホームページやブログ、メールなどで生徒や保護者への連絡事項の徹底や、学校行事などの広報に活用する。 • 教職員間での連絡事項や周知事項の徹底をICTの活用で進め、会議の効率化に貢献する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 学校教育自己診断「Web活用等の活用等」の項目 生徒(85.7%→86%) 保護者(88.5%→90%) • 職員学校診断アンケート「会議の充実・時間短縮」の項目 (51.2%→55%) 	<ul style="list-style-type: none"> • 校内の連絡用掲示モニタを活用しているが老朽化により正常に稼働できないときがあった。(○) • 情報発信についてはWebの活用が定着しブログの更新は予想以上に展開した。さらにはアンケートフォームの活用に着手しオープンスクールの申し込みや学校教育自己診断でも導入効果を確認できた。(学校教育自己診断「Web活用等の活用等」生徒85.7%→86.1%、保護者88.5%→94.4%) (◎) • ICT活用の会議の効率化は進んだものの多様な働き方の部分をカバーするまでには至らず、今後さらに改善を要する。(学校診断アンケート(教職員): 51.2%→40.0%) (△)